

平成25年度 中学校30人規模学級の実施状況について

義務教育課

1 実施状況について(市町村立学校)

No.	項 目	校数等		
(1)	中学校の総数(分校3含む)	189		
(2)	該当校数	中1	71 37.6%	
		中2	73 38.6%	
		中3	77 40.7%	
(3)	実施校数	中1	64 90.1%	
		中2	70 95.9%	
		中3	69 89.6%	
(4)	(3)のうち、専科教員分等の加配数	90		
(5)	該当するが導入を選択しない校数	中1	7 4.2%	
		中2	3 11.3%	
		中3	8 10.5%	
	理由	① 教室不足で対応できない	中1	2
		② 中2から中3で学級編制替しない	中3	6
		③ 校内事情(生徒数不安定など)	中1	5
			中2	3
		中3	2	

(24年度実施率 1年93% 2年91%)

2 実施校

(1) 1学年

東信	小諸東中、芦原中、浅間中、南牧中、上田第一中、上田第五中、上田第六中、塩田中、東御東部中、青木中、依田窪南部中
南信	岡谷東部中、岡谷南部中、諏訪南中、茅野北部中、富士見中、伊那中、伊那東部中、赤穂中、箕輪中、南箕輪中、宮田中、旭ヶ丘中、竜峡中、松川町立松川中、高森中、阿智中
中信	大桑中、旭町中、信明中、松島中、開成中、菅野中、女鳥羽中、梓川中、丘中、広陵中、穂高東中、三郷中、明科中、高瀬中、白馬中
北信	常盤中、墨坂中、小布施中、信濃中、飯綱中、坂城中、屋代中、中野平中、木島平中、豊田中、城南中、柳町中、櫻ヶ岡中、三陽中、東北中、長野北部中、裾花中、篠ノ井東中、篠ノ井西中、若穂中、更北中、広徳中

(2) 2学年(○は1年時30人規模学級を実施)

東信	○芦原中、○中込中、東中、望月中、○立科中、○上田第三中、○上田第四中、上田第五中、○上田第六中、○塩田中、○東御東部中、北御牧中、青木中
南信	上諏訪中、○諏訪中、茅野東部中、○下諏訪中、下諏訪社中、○伊那東部中、春富中、○赤穂中、○辰野中、箕輪中、○南箕輪中、鼎中、○松川町立松川中、○阿智中、○高陵中
中信	○清水中、信明中、○菅野中、筑摩野中、女鳥羽中、鉢盛中、梓川中、○波田中、塩尻中、○丘中、筑北中、○豊科北中、○豊科南中、穂高西中、三郷中、堀金中、○明科中、○仁科台中、高瀬中、白馬中
北信	○相森中、○墨坂中、○須坂市立東中、○高山中、信州新町中、信濃中、戸倉上山田中、更埴西中、○屋代中、○南宮中、中野平中、○山ノ内中、○木島平中、○櫻ヶ岡中、三陽中、北部中、○犀陵中、○篠ノ井西中、松代中、若穂中、○川中島中、○広徳中

(3) 3学年(〇は2年時30人規模学級を実施)

東信	〇小諸東中、〇芦原中、〇浅間中、〇野沢中、〇中込中、〇佐久中、〇軽井沢中、〇御代田中、〇立科中、〇上田第一中、〇上田第三中、〇上田第四中、〇上田第六中、〇塩田中、〇丸子中、〇丸子北中、〇東御東部中
南信	〇岡谷北部中、〇岡谷東部中、〇岡谷南部中、〇諏訪中、〇諏訪南中、〇茅野北部中、〇下諏訪中、〇原中、〇伊那東部中、〇赤穂中、〇辰野中、〇南箕輪中、飯田東中、〇旭ヶ丘中、〇緑ヶ丘中、〇松川町立松川中、〇阿智中、〇高陵中
中信	〇大桑中、〇清水中、〇鎌田中、〇旭町中、〇山辺中、〇高綱中、〇菅野中、〇波田中、〇丘中、〇広陵中、〇豊科北中、〇穂高東中、〇明科中、〇仁科台中
北信	〇常盤中、〇相森中、〇墨坂中、〇須坂市立東中、〇高山中、〇飯綱中、〇屋代中、〇南宮中、〇山ノ内中、〇木島平中、〇豊田中、〇柳町中、〇櫻ヶ岡中、〇長野東部中、三陽中、〇裾花中、〇犀陵中、〇篠ノ井西中、〇川中島中、〇広徳中

3 取組内容等について(例)

No.	学校	取組内容等
(1)	東信A中学校	一人一人の「表現の発信」を授業づくりの中核に据え、30人規模学級の利点を生かしたグループ学習と考えの共有を授業に位置づける。そこで、生徒の個性を発揮させる場面の確保、多様な授業形態や活動の創出、生徒の関わり方を確認しながら進める授業展開を柱とした授業改善に努める。
(2)	東信B中学校	個別指導を重視することで基礎学力を向上させ、学業不振による不登校を未然に防ぐとともに、個別の面談時間「悩み相談」「近況報告」を確保し、生徒一人一人の心の安定を図る。また、適正な生徒数の利を生かし、皆で支える「学級づくり」を行う。
(3)	南信C中学校	生徒一人一人の学習状況の把握や声がけ等、個に応じた支援の時間、回数を増やすとともに、個の考えを発表する回数を増やすことで、生徒同士の学び合いを活発にする。少人数での支援・指導についての授業改善を図るため、教科会では互いのアイデアを出し合い、授業を見合う機会を月1回は設けていく。
(4)	南信D中学校	一学級当たりの人数が少なくなったメリットを生かし、個々の生徒の学習定着状況を綿密に把握して個別指導の充実を図る。定着場面の工夫に焦点を当てた授業改善を図る。また、様々な悩みを抱える生徒にこまやかな支援を行い、不登校等の未然防止を図る。
(5)	中信E中学校	少人数学習集団による関わり合い、学び合う学習形態を効果的にとることによって、基礎的・基本的な学力の向上を図る。150点以下の生徒の割合を5パーセント以下にする。また、新たな不登校を出さない。不登校生徒の在籍率を2%以内にする。
(6)	中信F中学校	グループ活動への指導を確実にし、各教科において机間指導を丁寧に行ったり、集めた学習カードのチェックを念入りに行ったりして、つまづいている生徒への個別指導を充実させる。また、家庭学習のあり方等、指導の方針を明確にしていく。
(7)	北信G中学校	各種学力調査の結果を分析し、全教科「教えて考えさせる授業」の実践を通して学習スキルを身に付けさせ、家庭学習の充実と基礎的・基本的学習内容の定着や活用力を高める。少人数の学習により、個のつまづきに応じた補充的な学習や発展的な学習の指導を行う。
(8)	北信H中学校	QU検査や生徒相談の時間を活用し、生徒との個別の相談時間を確保するとともに、生徒相談の充実を図る。また、少人数学級の良さを生かし、生活記録などのコメントを丁寧に書き、生徒の心の状況把握に努め、不登校や学校不適應の未然防止につなげていく。